

文化ホール再建設検討に関するヒアリング

1. ヒアリング調査概要

- 目的 文化ホールの再建設にあたり、ホール利用者及びホールの専門的な立場の方から意見を聴取し、ホール機能の検討を行う際の参考とする。
- 期間 令和元年10月21日から令和3年11月11日
- 方法 ホールに求められる機能などについてホールの施設ごとに設問を設定し、原則、対面により各者約1時間程度個別にヒアリングを実施。
- 対象者 合計38団体43名
 - ◇運営関係者1団体2名(指定管理事業者)
 - ・(公財)習志野文化ホール
 - ◇ホール利用団体等25団体25名(習志野市芸術文化協会各所属団体の代表、その他利用団体代表等)
 - ・習志野フィルハーモニー管弦楽団
 - ・習志野シンフォニックブラス
 - ・マンドリンクラブエレガンス
 - ・習志野市芸術文化協会事務局
 - ・日舞(一二三会、花衛会、龍美会、花藤会同好会、翔舞会)
 - ・新日舞(千佳会、和徳会、和翔会)
 - ・フラダンス(モアナラニ、ハワイアンブリーズ)
 - ・ウィンドミル・オーケストラ
 - ・習志野シティーフィルハーモニック
 - ・混声合唱団コール・ドリーム
 - ・民謡民舞(南秋会、竹千会)
 - ・津田沼混声合唱団
 - ・NPO法人習志野第九合唱団
 - ・マリア・バレエクラス
 - ・(公財)千葉交響楽団
 - ・(公財)習志野文化ホール評議員(元NHK交響楽団)
 - ・(公財)習志野文化ホール理事(習志野の音楽を語る会)
 - ◇学校関係者5団体7名(市内小中高等学校 吹奏楽・管弦楽部顧問等)
 - ・谷津小学校
 - ・第一中学校
 - ・習志野高等学校
 - ・習志野市文化連盟
 - ・習志野教育研究会音楽部会
 - ◇興行事業者2団体3名
 - ・(株)ベルワールドミュージック
 - ・(株)アイエス
 - ◇近隣商業代表者2団体3名
 - ・津田沼南口商店会
 - ・津田沼一丁目商店会
 - ◇公民連携アドバイザー1名(元習志野市公有資産活用アドバイザー)
 - ・(一財)国土政策研究会
 - ◇市職員OB2名(建設当時担当者)

2. ヒアリング結果概要

(1) 客席規模(現状1475席)

○座席数

- ・同規模が適切と考えている。
- ・設計当初は興行利用の採算を考慮し1,800席で検討していたが、オイルショックの影響で縮小した。
- ・2,000席程度であれば、興行の内容が良くなる可能性はある。
- ・規模を縮小した場合、近隣の他のホールと競合する。
- ・現状より少ない規模はあり得ない。
- ・現状はワンスロープ形式だが、2階席やバルコニー席があった方が面白い。
- ・現状の1,500席程度が良い。文化ホールは市民利用がメインの施設である。「興行を考えると座席が足りない」などと言っているのは、呼び屋(興行プロモーター)だけであり、いうことを聞く必要はない。
- ・最終的には、利用対象を誰にするのかによる。
- ・人口等を考慮すると、現状より少ない規模はあり得ない。1,500~2,000席程度としたい。
- ・1,500席程度であれば、現状のワンスロープ形式が良いと思われる。1,500席より多くする場合は、音響を配慮するのであれば2階席はやむを得ないと考える。
- ・客席数を減らす場合、船橋の新しいホールと競合することは避けたい。
- ・小学校での利用実態を考えると現状でちょうどよい。
- ・県内に同サイズのホールが無いので、同規模でよい。
- ・バルコニー席を造る場合は、ステージの見やすさが重要である。バルコニー席からステージの一部が見えないホールもあるが、そうならないように注意すること。音に影響があるということはない。どちらかという天井の高さなどが影響する。ホールも楽器である。
- ・今も良いホールだが、150席~200席増えとなお良い。(最大1,800席程度まで)
- ・現状維持を希望する。2階の庇状の席は音が悪い席ができてしまうので好ましくない。
- ・アマチュアからすると1,500席は大きい。普段の演奏会は、頑張って1,000人ほど観客を呼んでいる。ホールを一つしか持てないのであれば、今と同じ程度でよい。
- ・38年間1,000人程度の観客を入れて演奏してきたが、もう少し小さな中ホールがあると良い。他の少人数の団体も、文化ホールでは大きすぎ、プラッツ習志野の市民ホールでは小さすぎると思う。客席が2階建てになるのであれば、1階だけ借りるなど700~800席程度が理想。ワンスロープであれば、一部分を間仕切って使用するなど検討してほしい。
- ・大ホール、小ホールの両方があると良い。
- ・現在の半分くらいのホールがあると良い。
- ・大小ホールの設置が難しいのであれば、700席~800席くらいで仕切って使用できると良い。(2F席とで分けられる、あるいはワンスロープで仕切りを設けるなど。)
- ・十分な大きさである
- ・現状程度~1,600席程度を希望。音響の良さの維持が大前提と考えるため、規模を大きくし過ぎないでほしい。2階席希望者も居るがそれにより音響が悪くなるなら2階席不要。

- ・2階席が無い方が便利。庇型よりもバルコニー席の方が音響の影響が少ないが、2階席を造って、音響が失敗しているホールがある。ワンスロープが良い。
- ・幅が広い方が良いので横に広げてほしい。
- ・現状維持でちょうどよいサイズ。広すぎると埋められず、狭すぎると物足りない。
- ・2階があっても良いが、音響が悪くなつてはいけぬ。その場合、バルコニー席になるか。
- ・ちょうどよい
- ・現状のホールの広さを維持したまま、700～800席くらいにするのが最良。
- ・近隣でワンスロープなのは文化ホールくらいである。2階となつても仕方ないが、ワンスロープが良い。2階を造るのであれば、1階のみを使用し2階を使わない料金プランがあると良い。庇形式の2階席を造る際は音響が悪くならないようにすること。
- ・バランスを考えると現状程度。パイプオルガンを演奏した際にホール全体が楽器となるような計画であつたはずである。ホールとしての位置づけが大切である。
- ・十分な広さである
- ・1,500席はちょっと大きすぎる。臨場感がない。他の演目も考えると300～700席くらいが使いやすい。良いソリストを呼べれば、1,200～1,300席あつても良い。
- ・1,500席があつたうえでの700席のホールが一番良い。理想だが、大ホールと小ホールがあると良い。
 - ・今後の人口減少、少子化を考慮すると、大きなホールを建てて後悔しないか。何十年もつのか。空席が目立つホールより、すぐにチケットの売り切れるホールの方が良いのではないか。現実的に利益を見込めるサイズにしてはどうか。1,500席で常に8割入るか。
- ・座席形式は2階席があつても良い。実は、一番音が良いのは2階である。ただし、庇形状で10席程度出てしまうと、音が悪いところが出てしまう。バルコニー席程度であれば問題ない。
- ・本当は1,500席でも少ないと思っている。稼ぐことはできない。稼げる文化ホールとするのか、市の財政を考えると現状同等程度とするのかである。市民利用を優先するのであれば使いやすく十分な規模と考えるが、稼ぐのであれば1,800～2,000席は必要である。
- ・そんなに小さいとは思っていない。現状維持で良いと思う。中野サンプラザのように、小さくても非常に興行成績が良いホールもある。なぜ、習志野文化ホールは興行が良くないのかと思つてしまう。また、公益財団法人では興行ばかりはできなくなる。利益体質にならない。興行を増やすことで、集客も増えていくので考えてほしい。
- ・最近の大都市圏では、ホールとしてではなく、収容人数5,000～10,000人のアリーナ(文化体育施設)として建築し、PFI事業者の中にイベントスやアミューズといった業者が入り、Jポップの興行を行っている。出演者のギャラが上がっており、一定の客数がないと運営を賄えない。
- ・1500席では、人気のあるポップスの興行は行えない。演歌は興行を行うことができる。
- ・規模が大きすぎると、オペラ等が生音で行うことが難しくなる。
- ・市民利用や学校利用を考慮すると、1200～1500席が最適な規模ではないか。興行を減らしていくなら1200席でも良いが、興行を行っていくなら1500席は必要である。市民の文化活動の拠点としてはプラッツ習志野が担っており、文化ホールは立地等からも興行等で稼ぐ形式にするという役割分担も考えられる。
- ・固定席ではないホールが増えている。椅子を収納し床をフラットにすることで収容人数を増や

すことができる。

- ・運営を民間に行わせ、資金調達してもらうことも、1500席規模であれば可能ではないか。
- ・広域連携として近隣市と話し合い、役割を分担することも考えられる。
- ・演歌の公演であれば、今のサイズがちょうどよい。氷川きよしなどの場合は、もう少し大きくても良い。
- ・大きくなると費用がかさむため、このサイズはこのサイズなりに使いやすく、ちょうどよい。
- ・2,000席にする場合、ポップス系で使用でき集客は可能。
- ・総武線沿線に駅近の2,000席規模のホールが無いため、一つあると良い。市川のホールは駅から遠い。
- ・そもそも、千葉県内に2,000席オーバーの駅近のホールが無い。松戸のホールも駅から離れている。
- ・1,500席はお客様にとっては見やすく、妥当なサイズではあるが、1,500席と2,000席を比較すると、興行の主催者としては収益の観点から2,000席の方がありがたい。
- ・2,000席になっても、現在ホールを使用しているアーティストは使用できる。
- ・(2,000席になれば、若年層向けのアーティストを呼べるかという質問に対し) 1,500席でもホールがゲネプロとして利用させてくれたり、共催してくれれば来やすくなる。費用(使用料)の問題である。
- ・教室の発表であれば十分。適当。ただし、興行として公演するのであれば少ない。

○座席間隔

- ・客席の座席間隔は広げたほうが良いが、建坪にも影響してくるため、ホールの面積は広げるべきではない。
- ・現在のホール内の通路は、横列の客席数が12席ごとに通路が設置されており、この形態は維持していただきたい。現在の形態であれば、座席の前後間隔が多少狭くても、最大で5~6名程度の方の前を通ればよい。許容範囲と考える。
- ・座席間隔より、座席数を最優先としたい。その他については折り合いを見て検討すればよい。
- ・座席の前後が狭い。座席数を削減しても間隔等を広げたほうが良いが、ホール建設の専門家に客席数を減らさずに座席間隔が広げられないか、相談してみてもどうか。
- ・ホール面積を広げることに反対である。広げると全部変わってしまうことになる。
- ・客席の座席間隔が狭いため、間隔等を広げたほうが良い。
- ・座席数を最優先としたい。次に多少座席間隔の拡大、機能面と考える。
- ・客席の座席前後の間隔及び座面が狭いため、間隔を広げる必要がある。その場合、客席部分の面積が増えることになる。
- ・現状そこまで座席間隔が狭いと思わない。
- ・平日の稼働率を上げることを考えたら客層は高齢者が中心となる。また、幼稚園や保育園が利用することもあるため、席の間隔をもう少し広くすることも検討してよいと思う。
- ・席の配置も音響に影響するため、席の間隔や数より音響最優先としてほしい。
- ・幅、奥行き共に少し広がると良い。最低でも現状レベルを維持してほしい。
- ・座席の広さより数が優先である。座席数は、最低でも現状維持としてほしい。

- ・できたときは当たり前の広さだったと思うが、最近のホールは若干広がっている。ゆったり見ていただくためには、若干でよいので広くしたい。
- ・文化ホールを観客として使用することがあまりないので気にならないが、少し狭いかもしれない。他のホールでは、もう少し広いところもある。
- ・そんなに狭いとは思わない。前後で交互に座席がずれているホールがあるが、そうすると舞台が見やすく良い。現状、文化ホールはそうっていない。
- ・前後が狭い。歌舞伎座も改修して前後が広がった。
- ・列の真ん中に座った人が出られるように、前後を広くしてほしい。プラッツ習志野のホールの席は前後が狭い。
- ・座席の前後の間隔は少し広くしてほしい。
- ・特に狭いとは思わない。これが一般的なのではないか。前後の幅は若干狭いかもしれない。
- ・気にならない。
- ・前後が狭い。観客が席で立ちあがっても、前を通れるスペースがあると良い。
- ・日本のホールは客席が狭い。隣と肘がぶつかり、手荷物も置けない。前後左右とも間隔を一定程度とり、優雅に聴けるようにしたい。
- ・ホールを作ったことのある設計者に相談してほしい。
- ・横幅も5cm～10cm広げられると良い。座席の幅と奥行きが必要。現状では真ん中に座る人は通れない。体つきも昔の日本人より大きくなってきており、各座席に両肘置きが付く程度広くなると良いのではないかと。それくらい余裕がある席づくりをしてはどうか。これからは量より質が大切。現在の椅子では、2時間座っていることは辛い。椅子にこだわった方が良い。最小のスペースを確保しながら設計していくことが多いだろうが、ゆったりした座席で、そういう文化を習志野から発信してもらえれば良いのかと思う。
- ・飛行機を例に挙げると、エコミークラスは密集しているが、ビジネスクラスになると前が少し広くなり、金額が倍に上がる。お年寄りでも障がい者でもゆっくりできる施設にするためには、座席はそれだけ大切である。
- ・特に意見は聞かない。他と比べるとゆったりしているのではないかと。

(2) ホール形式（現状は多目的ホール）

- ・多目的ホールが良い。
- ・現在の多目的ホールでよい。
- ・多目的ホールで、音楽を重視したホールが良い。
- ・現状と同じ音楽を中心とした多目的ホールが良い。都内にいくつか音楽専用ホールがあるが、稼働率は上がっていないようだ。多目的ホールであの音の響きの習志野文化ホールが良い。
- ・音響重視の多目的ホールが良い。ただし、“多目的”を前面に出すと音響に影響がある。音響を守ったうえでいろいろなことができると良い。今の文化ホールは良いが、もうちょっと良くなっても良いかなと思う。未来の利用方法を考えたときに、歌謡ショーを優先に考えるべきではない。吹奏楽と歌謡ショーでは、最適な残響時間が異なる。歌謡ショーでは習志野市は生き残れない。
- ・音楽に傾いた多目的ホール（現在の使い方）が良い。
- ・今の音響を維持した、音楽利用を中心とした多目的ホール。

- ・音楽利用できる多目的ホールが良い。和分野の方や演劇の方も利用できるようにしてほしい。
- ・多目的ホールが良い。
- ・音楽を主目的とした多目的ホール(現状維持)の声が多い。文化の拠点と考えると、多目的ホールで、今のような使い方が良い。現状にわりと満足している。
- ・多目的ホールが良いが、どこまで多目的とするか。音響が殺されてしまうのは困る。
- ・音楽を主目的とした多目的ホールが良い。市民全体でホールを楽しめる。
- ・ワンフロアの客席が使いやすい。
- ・複数階に分かれると管理が大変になる。
- ・最近建てられたホールは2～3階バルコニー式が多いが、手摺がちょうど目線の高さで邪魔になり舞台が見えない席がある。
- ・見切れて使えない席が出ることはおかしいが、ギリギリの高さに手摺を作ると観客の立場では低く、ちょっと怖い。
- ・ワンスロープが良いが、2階席にする場合バルコニー席だとステージが見にくい席ができてしまうため、庇席の方が良い。
- ・多目的ホールで良い。音楽専用ホールだと緞帳が無いケースがある。
- ・2階席があれば、2回最前列を招待席にできる。特別なスペースとなる。現ホールでは中央通路部分の席を招待席としているが、前を人が通ることになる。

(3) 舞台形式・サイズ(現状はプロセニウム形式、他と比べても遜色ないサイズ)

○舞台形式

- ・プロセニウム形式が良い。
- ・現状のプロセニウム形式でよい。
- ・歌謡曲ならプロセニウム形式が良いが、クラシックはオープン形式でよい。全体のスペースの中で決めていくことでよい。
- ・バレエや観劇、歌舞伎鑑賞で使われることもあるため、現状と同じプロセニウム形式が良い。
- ・音楽筋からするとオープン形式が良いが、多目的ホールにするのであればプロセニウム形式が良い。
- ・プロセニウム形式が良い。現状と同じが使い慣れていて良い。
- ・プロセニウム形式が良い。今のままで。
- ・プロセニウム形式が良い。使いやすくオーソドックスである。
- ・音楽をやるにはオープン形式が良いが、多目的ホールではなくなってしまうか。
- ・プラッツ習志野のように袖がドアだと不便で、三味線をぶつけてしまう。源氏幕が欲しい。
- ・そういうものだと思って使っている。

○舞台サイズ

- ・現状は最小限のサイズであるため、同程度でよい。
- ・舞台サイズは現状と同程度でよい。
- ・両脇1mずつ広げたい。最大幅を20m程度としたい。ただし広げると音響は落ちる。
- ・第九演奏会の時は、現状のサイズではきついのではないか。ピットを上げてもらいたいと思

う。

- ・現状と同程度でよい。あまり大きすぎても使いづらい。大人数のところもあるが、言っていたらきりがない。
- ・舞台裏（反響板の裏）に広いスペースが欲しい。
- ・袖の広さをもう少し広い方がよい。
- ・舞台袖に、大きな“たまり”を確保してほしい。現在の倍程度あってもよい。少なくとも現状上手の搬入用大型エレベーターや、下手のワイヤー操作装置の分が無くなれば面積が広がってよい。現状は、次の演者が“たまり”に入り切れていない。楽器が置けず上手下手共に狭い。
- ・プロセニウム枠間は10間が標準だと思うので現状同等でよい。反響板の位置により、実際に使用できる舞台サイズが異なるため気を付けること。反響板が奥に行くにつれ絞られ狭くなる。
- ・広くなるならその方がよい。
- ・文化ホールの舞台の奥行きは広くてよい。しかし、反響板の裏に実働スペースがない。舞台袖は若干狭いので広くしたい。
- ・割と大きい方だと思うので現状でよい。舞台裏や袖のサイズも問題ない。
- ・もう少し幅が狭い方がよい。
- ・舞台袖の広さは、道具も置いて十分である。
- ・舞台裏は狭いとは思わないが、通れる方が都合がよい。
- ・今のまま、あのくらい広いと嬉しい。袖や舞台の後ろの広さは今くらいでよい。
- ・反響板までの奥行きを深くし、ひな壇を充実させてほしい。団員に高齢者が多く簡易的でよいので座って公演の待機ができるスペースが欲しい。他のホール（東総ホール、南総ホール）には有る。
- ・奥行きを現行より3.6m（オーケストラピットを迫り上げて使用したときと同程度）深くしてほしい。
- ・舞台袖や舞台裏の広さはあまり気にならない。
- ・狭くは無い。団体の単独使用であれば問題なし。袖の広さも問題なし。舞台裏については、反響板の裏ではなく、さらにその裏に通路と楽屋があるホールもある。
- ・舞台の奥行きが、現状より2mくらい広くなるとよい。袖や舞台の後ろの広さは気にならない。
- ・舞台の奥行きが、広くなるとよい。松戸の森のホールは奥行きが広い。
- ・フルオーケストラが入ると100人くらいとなり、反響板も入る為オーケストラピットを迫り上げてても狭い。
- ・現状でよい。
- ・オーケストラにはちょうどよい。狭すぎるとは思わない。奥行きは天井次第である。天井がある方が響きがコントロールできる。ヴァイオリンなどは、一度音が上へ飛んで跳ね返ってくる。
- ・袖が広いとよい。海外では、バーカウンターのような場所があり、演者がお茶を飲んでちょっと一息つけるようになっているところもある。
- ・奥行きを深くし、ひな壇を充実して300名の合唱団が座れるだけのスペースが欲しい。
- ・演歌の催し物であれば、同程度でよい。
- ・最近建てられたホールは、舞台袖が狭く荷物が置けないことが多い。持ち込み機材の空箱などを置くスペースが必要になる。

- ・舞台袖が、現状より広い方が良い。
- ・言ったらキリがないが、気にはならない。大きくするとメリットもデメリットもある。
- ・発表会程度であれば舞台の幅は十分だが、大道具用に奥行きと両袖が不足している。大掛かりなグランドバレエの場合には、舞台以外のスペースが小さい。
- ・エプロンステージや花道など、あればそれに合った演出を行うことがある。

(4) 照明設備・音響設備（現状は十分なグレード）

○照明設備

- ・照明は同じグレードが良い。
- ・現在と同じグレードが良い。グレードを下げたら興行はできなくなる。
- ・照明は建て替え時にLEDにするのが良いのではないか。
- ・ステージを今より少し明るく、色もたくさん使えるようにしたい。
- ・特に問題は感じていない。
- ・困らない。
- ・特に問題は感じていない。業者に任せている。
- ・現状維持であれば不満は無いが、LEDを使用し直接受けても舞台上が暑くならないようにできればなお良い。
- ・過不足は無い。
- ・特になし。ただし、舞台が暑くならないようにしてほしい。
- ・舞台が暑くならないようにLED照明にしてほしい。
- ・舞台が暑くならないように、暑くならない照明にしてほしい。
- ・それほど問題ないが、舞台照明のプロの意見を聞いて最新のもので計画してほしい。
- ・暑くならないようにしてほしい。
- ・機材持ち込みのため問題なし。
- ・他のホールはデジタル化してきており、文化ホールの設備は古い。
- ・暑くなるという意見はない

○音響設備

- ・マイクを使用した際の音声が、他のホール（千葉県文化会館）よりも聞き取りにくい。
- ・現在と同じグレードが良い。グレードを下げたら興行はできなくなる。
- ・現状と同程度でよい。同時期に建設されたホールの中では、良い方である。
- ・ハウリングが起こらないように、スピーカーの配置に配慮してほしい。
- ・特に問題は感じていない。業者に任せている。
- ・同グレードでよいが、カセットテープを使用できるようにしてほしい。プラッツはCDとMDしか使えない。踊りに合わせて、編集したテープを使うため、カセットテープの使用可能は必須である。
- ・高音質マイクと、ハイレゾのデジタル録音設備（192kHz/24bit以上）が欲しい。USBやハードディスクに録音し、DVDに焼けるようにしたい。
- ・特に問題は無いが、集音マイクの性能が良くなればなお良い。
- ・特になし。気にならない。

- ・ミキサー室などが狭い。
- ・中継室や技師控室を撮影場所とすることがあるが、音響関係者と取り合いになる事がある。
- ・ワイヤレスマイクを使用した際に、下の店舗の放送を拾ってホールに流れてしまったことがある。
- ・現状でよい。
- ・レコーディングができる設備を整えてほしい。プロが録音してそのまま CD 化できたり、ネット配信できたりすると良い。
- ・機材持ち込みのため問題なし。

(5) 緞帳（現状はあるが、最近ではつけない施設も多い。）

- ・緞帳を使用しないホールが現在主流であり、必要ないと思われる。
- ・使用頻度が高いため 100%必要である。また、緞帳によりホールの品格があがる。
- ・現在の緞帳は文化財として残していただきたい。
- ・区切りは必要。ただし、決定的な必要要素ではない。
- ・今の緞帳は市内の鴫田画伯に原画を頼んで製作したもの。緞帳として使用しなくとも、何かしらの形で残してほしい。洗濯が必要だが、京都へ持っていかないと洗えないもの（西陣織）。
- ・緞帳はホールの顔であり、品格にかかわる。クラシックでは使用しないが、芝居等で使用頻度が高いため必要ではないか。
- ・緞帳はホールの顔であり、使用頻度が高いため必要である。学校利用や幼稚園利用の場合、暗転で舞台転換することが難しく、緞帳を下げて舞台側の照明をつけて舞台転換している。
- ・現在のものは西陣織で、当時 2,000 万円している。再利用できなくはないがプロセニアムのサイズを合わせなくてはならないため、緞帳ありきの設計となる。また、表面の刺繍部分のみを再利用し、裏側を仕立て直す必要があると思われる。
- ・学校行事では必須である。
- ・簡易的な幕で構わない。ただし、他のホールでも高そうな緞帳が使われているケースが多い。
- ・一般的な音楽会では無くて良いが、団体としては区切りとして利用している。ただし、緞帳に費用をかけて席や音響が悪くなるのであれば、簡易的な幕があればよいので、席と音響のグレードが優先である。
- ・イベントによっては必要で、多目的ホールにするのであればあった方が良いのではないか。
- ・現状の水準に慣れてしまっているので、あまりチープになるのも良くない。“格”にかかわる。
- ・使用する場面はあるが、無ければ無いなりにやる。ただし、幕があまりチープだと“褪める”。
- ・他の機能に優先することは無い。
- ・緞帳は不要。
- ・緞帳は絶対に必要である。また、緞帳はホールの“格”にかかわるため、簡易な幕では駄目。
- ・緞帳は必要である。簡易なものにすると「ここはお金をかけなかったのだな」とわかるので、立派なものにしてほしい。
- ・当団体の公演では使わない。しかし、ホールの格なので良いものを設置してほしい。
- ・音楽だけを考えている人は不要だが、多目的で考える人は必要であり、現行品でよい。
- ・緞帳、オーケストラピット、ギャラリーが削減の候補として団体内では意見が上がっているが、他の項目とも絡むので、単純には語れない。

- ・使わないので不要である。
- ・オーケストラは使用しない。
- ・団体としては使用していない。あっても無くても良い。
- ・現在のものは歴史があるので、使ってもらえるなら使ってほしい。
- ・緞帳はあった方が良い。
- ・簡易的な幕ではなく緞帳が良い。シャットアウトできるものが必要。
- ・今時緞帳は不要。笑われる。横方向で開閉する簡易的な幕があればよい。
- ・緞帳がステータスになっていたのは昭和初期までである。そのお金があるなら、良いピアノを購入して欲しい。
- ・区切りとして「これから始まるぞ」という大切なものではないか。無くても良いが、好きな人もいる。高価なものにするかどうかは、別の話である。あまりこだわらない。
- ・緞帳はなくても良いと思われる。
- ・あった方が良い。
- ・歌謡曲のステージには緞帳があった方が良い。
- ・簡易的な幕より緞帳が良い。
- ・引分けの幕が欲しい。
- ・現在の緞帳は色が派手で、悲劇の際には使えない。演出に影響する。

(6) パイプオルガン（県内の公共ホールでは唯一設置している）

○必要性

- ・県内で唯一設置されており、パイプオルガンを目的にホールを借りる団体もいる。
- ・パイプオルガンを使用する楽曲が少なく、費用も必要となり、パイプオルガンが無くてもホールは成立するが、ホールの目玉になっている為、90%必要である。ホールのステータスである。
- ・何を基準にして稼働率が低いとするか、そのような判断基準は無いものとする。稼働していないから価値が無いという考え方はおかしい。文化とはそういうものではない。
- ・今の利用頻度は少ない。飾っておいても仕方がない。真冬の風鈴みたいなものである。
- ・パイプオルガンだけでお客さんと呼べるかという難しい。愛好家がどれだけいるのか。
- ・“経営”と“効果”が重要である。市民の皆さんが財政負担と比較してどう思うかである。そのため、行政が一方的に決めるのではなく、丁寧に説明することが求められる。
- ・パイプオルガンは“売り”にはなる。ただ、使わないなら、莫大な負担になるだけ。最終的には財政負担と比較した市民の判断になる。
- ・演奏家には“経営”は関係ない。経営側とはマッチしないところが出てくる。
- ・優先順位の判断ではあると思うが、建設当時の吉野市長の想いを知っているため、可能であれば残してほしい。
- ・稼働率は低く、費用もスペースもかなり必要となる。しかし、シンボリックなものであることも考え、費用対効果ではなく、ホールを魅力あるものにしていただきたい。費用対効果をあまり考えてしまうと、魅力のない施設になってしまう。あった方が良く思う。
- ・不要である。
- ・パイプオルガンに費用をかけるより、使用頻度の高いピアノを良いものにするという考え方もあり得る。

- ・建設当時はパイプオルガンを設置したホールが無かったため、海外のオーケストラを呼んで演奏するために必要であったのではないかと。現在は、都内にパイプオルガンを設置しているホールは多数あり、プロを呼んでも設置費・維持費の割に稼働率は上がらない。ホールを造った際は感動し、当時の人々は“シンボル”と想っただろうが、公共ホールは使われることが重要であり、費用が足枷になるのであれば、不要である。他に費用をかけたほうが良い。
- ・絶対に必要である。団体としては利用している。
- ・オーケストラの幅が広がり、パイプオルガンを利用した曲ができる。
- ・習志野市は“面積は小さいが心はでかく”行きたい。使うかどうかということもあるが、音楽で有名な市としてのシンボルである。元々教会以外では使用頻度が多いものではない。使用頻度の低さを理由にパイプオルガンを無くせとは、音楽への冒瀆である。
- ・是非残してほしい。オーケストラの曲によっては使ったことがある。
- ・稼働率、維持費からすると優先度は低くなるのではないかと。
- ・パイプオルガンを優先的に残すというポリシーがあるかどうかによる。
- ・共演で2～3回使用したことがある。これまでもあった物であり、文化ホールの目玉である。費用を考えると絶対ではないが、あった方が良い。
- ・ホールの目的がそういう事なのではないかと。パイプオルガンは習志野市のシンボルである。使わないので“あるな”という感じ。それ以上のことは言えない。
- ・習志野市には必要である。
- ・団体の中でも意見が分かれる。経済性を考えると不要。しかし習志野文化ホールの象徴であり、財産なので、現行品を継続したうえで、もっと活用してほしいとの意見も多い。
- ・ホールにパイプオルガンがあることは、建設当時は非常に画期的で残したいと思うが、財政的に厳しい時は無くてもしょうがない。
- ・音楽ファンとしては、このホールならではの必要である。近くではここでしか聞けない。
- ・習志野市のシンボルだったのではないかと。あるから使ってみた程度で、数回使ったことはある。もっとプロのオーケストラが来て使うなら良いのではないかと。
- ・使う曲が少ない。無かったら無かったで良い。
- ・40年近く公演してきたが、1回だけ使用した。使う機会は少ないが文化ホールのシンボルだったはずと思う。無くなるのは寂しいが、では使うかと言われたら使わない。利用料もかかる。費用対効果を考えると要らないとなる。
- ・パイプオルガンそのものは素晴らしい。ホールとしてもオルガンのあるホールとして名が通っている。特徴である。文化ホールの格としてあった方が良い。
- ・1度だけ使ったが、無ければ困るというほどのものではない。
- ・団体では使わない。
- ・必要である。オルガンが無いと演奏できない曲もある。世界の名だたるホールには必ずオルガンがあるものである。
- ・そんなに毎日使わないが、それがあるか無いかでホールの格が違う。見た目も美しい。これだけの規模のパイプオルガンのあるホールはほとんどない。
- ・パイプオルガンは必須であり、現状はそういう設計になっている。
- ・文化ホールに年数回クラシックを聴きに行くが、パイプオルガンを使っていることはほぼない。宗教的な音楽で使用することが多いだろうから、実質的には必要ないのであろうと思料する。た

だし、音楽ホールとしての文化的質を考えると、あった方が良くとも思う。非常に難しい判断である。無いよりあった方が良い。聴く人のモチベーションが上がる。音楽関係者は欲しいと思う。一方、費用のことを考慮すると、他のことの質の向上に費用をかけた方が良いという意見もあると思う。椅子の質や、壁の質などいろいろあるのではないか。

- ・パイプオルガンはホールとしての、大きなキャッチフレーズになる。視覚に訴えるため、ホールの印象としては良い。
- ・パイプオルガンがあることにより、良いイベントを行うことができる。
- ・使用していない。
- ・使えるなら使いたいが、使ったことは無い。

○設置位置

- ・オーケストラと合わせるために、ホール内にあることが望ましい。
- ・多目的ホールであることから、舞台上が良い。
- ・舞台芸術として使用することが目的であり、オーケストラと合わせることに意味があるため、ホール外に設置することはあり得ない。
- ・設置するのであれば、舞台上でよい。
- ・多目的ホールであることから、舞台上が良い。
- ・仮に設けるのであれば、ホールの外が望ましいのではないか。
- ・舞台上に設置した場合、ホールが左右対称でなくなり音響に影響が出ると考える。
- ・舞台中央に設置した場合、多目的ホールとすることは難しいのではないか。
- ・設置するのであれば、多目的ホールなので舞台の上手か下手となる。
- ・パイプは固定で、演奏部分だけ可動式というものもあるようだ。
- ・舞台中央に設置し、その両脇に背面客席を150席程度入れたいが、多目的ホールなので、袖に設置となってもやむを得ない。
- ・コンサートに特化したホールであれば中央に設置してほしいが、使用目的に拠るので難しいのではないか。多目的ホールであれば上手でよい。基本的には、今と変わらないホールにしてほしい。
- ・多目的ホールであれば、正面は難しいのではないか。
- ・あったので使わせてもらった程度。絶対的な希望は無い。可動式には興味がある。
- ・現状で邪魔にはなっていない。非常に豪華。今のままでよいと思う。
- ・今のとおり舞台上でよい。
- ・合奏で使用したいので、現在と同じ位置が良い。
- ・オルガンの演奏時、奏者は指揮者と観客に背中を向けることとなり、鏡を置くなどして対応している。工夫が必要である。
- ・邪魔になってはいない。
- ・音響のプロの意見を聞いて計画してほしい。現在のように上手でも良いと思う。
- ・演出で邪魔になる事は無い。あることを忘れていたほど。
- ・演出上問題はない。

○活用

- ・パイプオルガンを使用することにこだわらなくても良いという意見も聞いている。
- ・以前行っていたパイプオルガン講座等を行い、もっと活用すべきである。
- ・市内の小中学校の児童生徒は、小中学校音楽会で年一回はパイプオルガンを聞いている。教科書にも掲載されている楽器であり、授業でも使っている。貴重な経験である。
- ・無理に活用する必要はない。
- ・他の演目をやればよい。
- ・無ければ無いでよい。オーケストラで使用しなければならない時は少ない。
- ・利用料金が低い
- ・ホールのコンセプトとして“普通のホール”であればよいが、市の面積の割にプロの輩出率が高いのは文化ホールのおかげもある。習志野をどういうまちにしたいのか、どうしたいのかということである。1つのホールがあればよいという発想なのか。わがまちのパイプオルガンを音楽のまちとして残さないといけない。
- ・オルガン奏者が、予約の空いている隙間の時間に手軽に弾けるようにしてはどうか。
- ・過去には、オルガンの音色に触れる目的で小中音楽会の最後に演奏していたことがある。
- ・パイプオルガンありきで催しを決めるわけにはいかない。
- ・これまで当団体として習志野文化ホールで19回公演しているが、パイプオルガンはそのうち2回使用している。弾き手を確保しづらい。
- ・費用対効果を考えると、パイプオルガンありきで運営していくということでは難しいのではないかと。
- ・安ければ使うことはある。
- ・そもそもホール自体が特定の人しか使わない。パイプオルガンは象徴的な存在であり扱いに悩むと思うが、公費が入っている中で少ししか稼働していなければもったいない。もしくは、受益者負担の観点から、利用料金を上げるかを検討しないと利用しない市民に説明がつかない。
- ・皆に親しまれていることは事実であるが、営業利益が本当に上がるような活用をすべき。
- ・現状と同程度でよい。
- ・もっと活用すべきである。使われないのは勿体ない。
- ・使った方がよいが、使える団体がないのではないかと。アマチュアレベルだと難しく使える曲がない。奏者に専門の人を呼ばなければいけない。レパートリーもない。
- ・もっと活用すべきとは思いますが、では使ってくださいと言っても使う側の演目のレパートリーと料金の問題がある。
- ・率先して演奏し、市民に胸に響き渡るパイプオルガンの良さを知ってもらった方がよい。レクチャーがあつたらより親しみやすくなるのではないかと。
- ・団体としては使用していない。必要ない。
- ・パイプオルガンが無ければ、今は機械音響でその音を出して対応できるのではないかと。
- ・オルガンを弾きたがっている人は多くいる。弾きたい人にはどんどん弾かせてあげるようにするとよい。空き時間に予約できるようにすれば需要はある。
- ・世界的にオルガンのあるホールでも、オルガンばかりやっているわけではない。
- ・新しい形態の音楽会を開ければよい。何部かに分けて異なるジャンルの音楽を演奏したり、休憩をいれて周辺の飲食店へ誘導したり、その間に換気したりすればよい。その中に、オルガンに特化した時間があってもよいのではないかと。

- ・パイプオルガンで、ジャズや現代曲も演奏できる。使い方次第。
- ・年間30回程度の利用であれば、妥当ではないか。
- ・パイプオルガン奏者の練習を聞くのも楽しいものであり、公開練習として無料で集客しても良いし、安い料金を取ることも可能ではないか。
- ・ブランド物。
- ・実際に使うとなると大掛かりになる。そうであれば、グランドバレエを行うために必要な設備にお金をかけたい。

(7) 付属室の数(リハーサル室×1、楽屋 大×1、中×2、小×3)

- ・楽屋が不足する際に、他の部屋を楽屋として使用できる設計にすればよいと考える。
- ・現状程度でよい。第九演奏会など最大演者の利用を基準にすべきでない。
- ・現状は、他のホールに比べても付属室が少ないうえに狭い。第九演奏会の際は楽屋が不十分である。
- ・ギャラリーやモリシアホール等を使っても楽屋が足りないケースがあるため、中規模の楽屋を増やしてほしい。
- ・防音の練習室を設け、楽屋としても使用できる形式も考えられる。
- ・学校利用であれば、広いリハーサル室があれば楽屋として利用しやすい。
- ・広いリハーサル室が2室くらいあると良い。100人規模の部屋があると使い勝手が良い。普段は仕切って利用できるようにしても良い。現状の規模では、今後海外オーケストラを呼ぼうとしても、狭くて怒られてしまうレベルである。
- ・現状の1.5倍から2倍程度の広さのリハーサル室があると良い。
- ・部屋数を増やしてほしい。複数あると回しやすい。
- ・もう少し部屋が欲しい。現状でギリギリ。
- ・リハーサル室は狭いので広くしてほしい。他のホールではもう少し広いリハーサル室がある。また、靴のまま使用できるようにしてほしい。
- ・指揮者や司会者、来賓などは別々の楽屋を用意するため、小さい楽屋も今の数は維持してほしい。
- ・動線が分かりやすく使いやすい。都内にはわかりにくいホールが多い。
- ・リハーサル室に靴で入れないことは問題なく、むしろ直接座れて使い勝手が良い。
- ・リハーサル室のサイズは問題ない。
- ・大小あり使いやすく、数は間に合っている。個室はもう一つくらいあっても良い。もしくは区切りが必要。
- ・和室はそんなに重要ではない。必要な時にゴザを敷いて使う事でも良いのではないか。和室は天井が低く使いづらい。昔は、年配の方が使用していたが今は和室は必須ではない。
- ・重い衣装を着ることもあり、楽屋から舞台まで階段での移動が大変である。舞台と楽屋が近いと良い。また、舞台へ続くエレベーターは下手側に設置してほしい。
- ・靴を脱いで入るリハーサル室は必要である。土足ではない方が良い。我々は楽屋履きを用意しているくらいである。
- ・リハーサル室の広さはちょうどよい。
- ・楽屋が少ない。大きい楽屋がもう一つあると良い。

- ・フラダンスは裸足で踊るため、リハーサル室は土足厳禁が良い。
- ・楽屋と舞台は別のフロアが良い。
- ・リハーサル室は広いに越したことはないが、奥行きか幅のどちらかでも舞台と同程度あると良い。
- ・現行では狭く、かつ少ない。モリシアホールを借りてやりくりしている。公演時の出演者が多い。オーケストラやソリストがおり部屋数が必要。現行以上の広さと、部屋数増を希望する。
- ・もっと広くないとちゃんと使えない。リハーサル室は中途半端である。本団体は出演者が多く座ることもできない。
- ・リハーサル室が土足禁止なことについては、使い方次第である。楽屋として使うのであれば土足で入れた方が良いが、リハーサル室であれば土足禁止でよい。
- ・リハーサル室と舞台の階は、しっかり分けたほうが良い。
- ・部屋数の不足を感じたことは無いが、音を出せる部屋（練習室）がもう少しあると良い。
- ・練習室が複数あれば、用途によって土足禁止や靴のまま使用可の部屋などを分けられる。
- ・楽屋と舞台は同じフロアが便利である。リハーサル室などの音出しをする部屋は別の階が良い。ただし、優先順位がそこまで高いわけではないので、楽屋と舞台が別の階になっても良い。
- ・気にならない。和室は不要。リハーサル室は楽屋として使用している。
- ・楽屋と舞台は、同階でも別でもどちらでもよい。音漏れは別フロアの方が気にしなくてよい。
- ・シャワー室はほとんど使わないので不要ではないか。（館長より興行利用者は使用しているとの説明あり）
- ・楽屋の数は団体としては不足していないが、オーケストラや他団体と共演する際に不足する。リハーサル室など、ある程度広さのある部屋の数を増やしてほしい。
- ・リハーサル室が狭く、オーケストラと合唱団の両方が入りきれない。倍とまではいなくても1.5倍程度の広さがあると良い。
- ・リハーサル室はバレエの使用もあるし、直接座ることもあるので土足禁止のままでもよい。
- ・数や広さは十分である。
- ・楽屋と舞台を別の階にする場合は、エレベーターを設置してほしい。階段を上るのは高齢者が多く大変である。
- ・和室の楽屋は不要。ゴザがあればよい。
- ・リハーサル室のサイズは少し狭い。70人くらい入れると良い。
- ・楽屋は、大きな部屋が男女別で必要であり、ソリストや指揮者用の個室も必要。最近はジェンダーという考え方もあることから、部屋を用意出来たらよい。
- ・楽屋の鏡の前の机を一人ずつ仕切れたらよい。幅はバイオリンのケースを横にして置けることが基準となる。
- ・ホール付きのオーケストラがいれば、ロッカールームが必要となる。
- ・指揮者用の特別室を複数、舞台と同じフロアにあった方がよい（コンマスやソリスト用等）。
- ・このホールのサイズであれば問題ない。
- ・ホールが大きくなるとスタッフが増えるため、増やす必要がある。
- ・和室の楽屋は、まれに好む方もいるが不要。
- ・サイズに不満を持ったことは無い。
- ・ホールの規模に対しては、現状の楽屋の数は問題ない。

- ・個室も和室もあってよいが、畳の部屋は靴で上がれないため脱ぎ履きが不便であり、無くても良い。
- ・楽屋はステージと同じフロアにあった方がよい。
- ・楽屋の大きさは気にならない。
- ・楽屋と舞台を同フロアに配置してほしい。子どもを連れて階段を移動するのは大変。
- ・楽屋と舞台を別フロアにする理由が「音」であれば、防音対策をすればよいのではないか。
- ・オーケストラと共演する際には、楽屋が不足する。
- ・舞台下手側に演者の控えがあるが、騒いでいるとアナウンスの際などに影響がある。
- ・大楽屋の中にトイレが欲しい。楽屋エリアのトイレが少ないため、本番前は混雑する。
- ・現状のリハーサル室をリハーサルで使用したことは無い。楽屋がわりであり、リハーサル室として稼働していない。リハーサル室は舞台と同じ広さが必要。現在のリハーサル室は広さが足りずリハーサルができない。舞台と同じ広さのところでは場当たり、立ち位置等を確認していく必要がある。
- ・土足禁止で、リノリウムが良い。自分たちでリノリウムを敷くリハーサル室もある。

(8) 付属室の活用（現状では単独で貸し出しすることはしていない。）

- ・単独で会議室等として貸せるような配置としたい。
- ・練習室を設けたい。
- ・楽屋を単独で貸し出すことは、ホール自体の稼働率が高いため、あまり好ましくない。
- ・現状でよい
- ・楽屋等を練習室としても使用できるので、単独で借りられるのであれば使用されると思う。
- ・単独で貸し出しできればよいが、ロビーから直接入る等の動線を確保する必要がある。ただし、ホールの空き日がほとんどないため、単独で貸し出し可能な日程がどれだけあるか懐疑的。
- ・練習室を貸し出しているホールはある。
- ・部屋数を増やせるなら、練習室やリハーサル室をホールとは別で貸し出せるようにしてはどうか。
- ・金額にもよるが、プラッツ習志野の開設により閉鎖となった施設もあり、サークル利用などの需要はあるのではないか。
- ・広い練習室が欲しい。借りたい人はいると思う。現状のリハーサル室は靴を脱ぐ必要があり勝手が悪い。
- ・単独で貸し出してもよいが、ホール利用者と付属室利用者をしっかりセパレートし、動線の交錯が無いようにすること。
- ・稼働率を上げることを考えたらよいと思うが、部屋のサイズを大きくしないと不自由だと思う。
- ・市内に演奏団体は多数あるためニーズはあると思う。以前は学校を貸し出していたが、今は管理上貸し出しも難しい。
- ・単独で貸し出すようになれば使用したいが、特定の団体が頻繁（独占的）に使用することが問題になるかもしれない。
- ・近隣の学校が使用したいかもしれない。
- ・単独で使用できるなら練習会場として使う。その場合はもう少し大きな部屋があった方がよい。

- ・借りられる会場がなかなかない。茜浜ホールを使うこともあるが予約が取れない。
- ・モリシアホールは打楽器が使用できないので、練習室として使いたい。
- ・他の会館も無くなってきており、単独利用可能であれば利用する可能性はある。
- ・広い教室があるので、単独で練習室を貸し出しても、わざわざ来て使う事は無い。
- ・リハーサル室は現行よりかなり広くし、単独で貸し出し可能なスペース（練習室）にできないか。団体の普段の練習スペースとして利用可能なようにしてほしい。広さは、現行の1.5倍程度を希望する。
- ・我々のような大規模演奏会に合わせると稼働が落ちる。併せて、貸し出しをするなど稼働を増やすことも検討する必要がある。
- ・練習室を多数併設させ、一つの公民館のように個別に貸出しし、演奏会等の場合、優先的に楽屋として使えるようにしてほしい。
- ・音を出せる部屋（練習室）や、持ち運びが難しい楽器の貸し出しがあれば、是非借りたい。
- ・現在のリハーサル室の1.5倍程度の広さが良い。例) かつしかシンフォニーヒルズ
- ・リハーサル室をホールとは別で貸し出してほしい。借りたいと思う事がある。
- ・リハーサル室は土足禁止でも問題ない。
- ・貸し出しを行うのであれば、演奏会の前などに使用する。オーケストラやソリストとの音合わせを行いたい。公民館では少し狭い。ホール自体を別団体が使っていても、部屋に空きがあれば有効活用できればと思う。
- ・リハーサル室にピアノがあると良い。
- ・単独で使用できれば、使う場合もあると思う。あった方が良い。
- ・リハーサル室は土足禁止の方が良い。土足だと汚れてしまう。
- ・単独で借用できるのであれば使用する。2部屋あっても良い。リハーサル室として貸し出せば需要がある。
- ・ピアノ付きの楽屋が必要。
- ・土足禁止は古い。
- ・和室と貴賓室（応接室）が必要かも検討することが必要。
- ・リハーサル室は現行よりかなり広くし、単独で貸し出し可能なスペース（練習室）にできないか。
- ・練習室を多数併設させて、一つの公民館のように個別に貸出しし、演奏会等の場合、優先的に、楽屋として使うようにできないか。
- ・リハーサル室で靴を脱ぐのは不便。
- ・リハーサル室が、舞台と同サイズであれば使用したい。現状、リハーサルを他のホールのリハーサル室を借りて行っている団体はたくさんあるため、借り手は多いと思う。

(9) ロビー及びホワイエの広さ

- ・現在と同程度の面積は欲しい。
- ・最小限現在の規模は必要と考える。
- ・ホワイエは現状ほど広くなくてよい。あれだけの面積が活用されていないことは勿体ない。軽食提供や物品販売など、商売をやればよいと思う。

- ・現状のホワイエは立派で良いものだが、他を確保するために削減することはやむを得ない。ホワイエで、ドリンク販売や物販を行っても良いのではないか。
- ・現状の広さは必要と考える。
- ・学校利用の際、ホール内は飲食厳禁のため、児童生徒はホワイエ等で食事をとっている。
- ・ホールの空き日がほとんどないため、単独で貸し出し可能な日程がどれだけあるかは懐疑的。
- ・ホワイエは小さくても運用のやり方で何とかなるが、大きい方がホールとして使いやすい。ただし、あれ程には要らない。学校利用時の子供たちの食事場所もやりようである。
- ・ホワイエは広くて使い勝手が良い。ただし、楽屋やリハーサル室が狭く、入りきれなかった人があふれて使っているだけである。リハーサル室や練習室がその分あった方が良い。楽屋やリハーサル室が十分であれば、ホワイエが少し縮まっても良い。
- ・ホワイエは学校関係で集まる際は、縮小してしまうと動きづらくなる。学校利用が日常ではないが、面積は確保したい。
- ・ロビーやホワイエは、あれほど広くなくてよい。
- ・ロビーやホワイエは、絶対ではないが同程度の広さがほしい。団体で展示や茶席、お客様のたまり、挨拶の場として使用している
- ・ロビーは集客状況による。お客さんがたくさん入る公演では、あれくらい必要ではないか。
- ・ロビーは、チケットを買う人が多く集まるので、現状程度の広さが必要。
- ・ホワイエは少し広すぎると感じるが、展示や休憩スペースにも使われている。
- ・会場前において、ロビーに人が入りきれない時はホワイエを開放して人をさばくことがある。たまり場が必要である。また、雨天の時などはこれくらいのスペースがないと入りきれないので、同程度の広さを確保してほしい。
- ・ロビーやホワイエは、広いので削減しても良い。その分、練習室が欲しい。
- ・ホワイエが広すぎると感じたことは無い。今くらいあってよい。
- ・ロビーは現状程度の広さが必要である。観客が並ぶので狭いくらいである。
- ・ホワイエはロビーと一体化しても良いのでは。使いやすくしても良い。
- ・ロビーは現状でちょうどよい。
- ・ホワイエは削減しても良いのではないか。あの広さまではいらない。
- ・ロビーやホワイエは、ホールに入る前の前哨戦である。そのため、ホールにうまくリンクしていかなければいけない。デザイン性を含め質を求めてほしい。扉を開いた瞬間から非日常的空間を作ることが大切である。30~50年間耐える空間、雰囲気的大事。
これまでの経験からすると、東京で設計すると千葉は田舎仕様になりがちである。
広さはホールのスペースで決まってくる。広いにこしたことはないが、そこに置く椅子やオブジェもしっかり検討してほしい。美術館と同様である。
- ・ロビー、ホワイエは、現状ほどではないにしろ、ある程度広さがあった方が良い。最近建てられたホールは、狭くて使い辛い。入口から、すぐにホールというようなホールでは物販もできない。○
○ホールや◇◇公会堂はロビーが狭く、立川のホールはロビーが広くて良い。
- ・ホワイエは、入り口から物販までの距離が長いほうが、人が溜れて良い。狭いと迷惑になる。現状のホワイエは、横幅は広いが、奥行きがあった方が良い。
- ・ホワイエ、ロビーについては特に意見は聞かない。

(10) オーケストラピット（オペラの際にオーケストラが入るスペース）

- ・ステージを拡張するため（60名分）にも使用しているため必要と考える。
- ・現状では、ほぼ客席スペースとなっている。
- ・オペラで使用するために必要と考える。芸術文化の殿堂であり、建設当時の市のビジョンからも必要である。
- ・オーケストラピットを設けない場合は舞台を広くしてほしい。ピットとしての使用頻度は年に数回であり、本来の使い方ではないが、迫出し舞台として使っている。
- ・オペラでの使用は近年ない。ピットのメンテナンスにも費用がかかっている。
- ・迫り上げてステージとして使用することが多い。上りは必要だが下げてオーケストラピットとして利用する必要はない。前のスペースが広ければ代用できる。上げて椅子を外しステージとして使用するだけの設備でもよい。現状のような張り出しステージを無くしてしまうと、人力で設置することとなり、非常に労力がかかり大変である。
- ・第九演奏会の際は、張り出しステージは必要となる。ステージを低くして一体的に活用する方法もある。
- ・オペラをやりたい人は欲しいと思うが、チケットが売れず、経費の方が高い。ピットとしてほとんど使われていない。
- ・ピットへ落ちる危険性に配慮し団体の使用はあまり考えていない。小中学生も安全面を考えると使うことを躊躇してしまう。優先順位は低い。また、ピットは他の劇場と比較して少し深く狭いため、設置するのであれば検討が必要。50人でいっぱいになってしまう。危険性を理解できる大人の利用でなければ、活用は難しいのではないかと。優先順位としてはパイプオルガンの方が上位である。
- ・オーケストラピットを迫り上げステージとして使用する場合は、広くなって非常に良いが客席が減ってしまう。客席があと200席～300席あれば、一部客席を撤去しても席数が保て、迫り上げステージを非常に有効に使える。
- ・下げて使用したことは無いが、上げて舞台とすることはよくある。迫り出しステージは必要である。
- ・ピットとしても、迫り上げステージとしても使用していない。
- ・オーケストラピットは使用したことは無い。人数が少ないので、迫り上げステージとしても使用していない。
- ・オーケストラピットは、迫り上げステージとしても使用していない。
- ・オーケストラピットは使用したことは無い。
- ・舞台の奥行きが深くなれば、オーケストラピットは不要である。
- ・オーケストラピットはあると嬉しいが、何が何でも必要とは思わない。現状は中途半端な大きさである。
- ・オーケストラピットを舞台にする方法は手間がかかる。座席面が電動で下がるオーケストラピットは欲しいが、オペラ公演の稼働率しだいであり、そこまで考えると絶対に必要とはいえない。また、オーケストラピットを上げた状態での音響設計にはなっていない。中途半端になるなら不要。
- ・団体としては、オーケストラピットを使う演目がない。無くても困らない。
- ・オーケストラピットとしては使用したことは無いが、他の団体との共演時に舞台の拡張に使用し

たことはある。舞台サイズでも言ったように奥行きが2m 広がるなら、不要である。

- ・オーケストラピットは、ピットとして使用していないので削減しても良い。あまり必要性を感じない。舞台の奥行きが広くなれば、迫り上げとしても不要である。
- ・オーケストラピットは使っていない。
- ・オーケストラピットは必要である。ただし、客席と同じ高さで客席のみ撤去しオーケストラを入れたり、あまり高低差を付けずにオーケストラピットとすることもある。設置の仕方は色々である。
- ・オーケストラピットは不要。迫り上げて使用することも無い。

(11) イベントホール（現状はモリシアホールがある。）

- ・会社説明会、商品展示会、大ホールの楽屋などの使い勝手は良い。
- ・可能であれば座席付きの小ホールが必要と考える。
- ・最低限イベントホールは必要である。また、ホールから屋外に出ずに行けるようにしていただきたい。
- ・現状と同程度のイベントホールは必要。使用料が大きな収入になっている。稼ぐネタは持っておくべき。
- ・音楽ホールの大ホール・小ホールを対にする位置づけが必要だとは思わない。
- ・イベントホールではなく、座席付きの小ホールがあるべきと考える。
- ・大ホールと小ホールが対で同じところにあるのが基本である。
- ・同程度のものは必要と考える。
- ・整形で間仕切りできるものが良い。現状は可動間仕切りを2重に使用することで防音性を高めている。
- ・可動式のステージ、バックヤード、ピアノの収納場所も必要となる。
- ・学校での利用は無い。
- ・有効利用してリハーサルに使用することもある。
- ・大小つながっていないと、効率よく利用できない。一度、外に出るということは考えられない。
- ・同程度のものが必要であり、発表会で使用できる仕様だと良い。楽屋や移動式のステージがあるとよい。
- ・使用していないので不要。
- ・同程度のものは必要である。
- ・あまり使用していないので必要ない。
- ・ステージが可動式のため、動いてしまって使いづらい。
- ・使っていない。少し離れている。外に出ずに使用できる位置にあれば使用するかもしれない。
- ・多目的に使えるフラットなスペースは、展示会やレセプションなど活用範囲が広く必要である。団体の練習に使用できるくらいの規模と設備が欲しい。
- ・使っていない。合唱と一緒に公演を行った際のレセプション会場となったことはある。多目的に使える。
- ・モリシアホールより席付きの小ホールが欲しい。
- ・使っている。同程度のホールが必要だが、小ホールがあるとよい。
- ・モリシアホールを小ホールの使い方できると良い。フラットで可動式の席でよい。
- ・舞台を少し広くし、ピアノの位置を自由にできると良い。

- ・使っていない。
- ・クリスマスコンサートをやっている。音が良いに越したことはない。舞台が可動式で段差を設けられると良い。
- ・必要である。現状は幅が足りない。整形であった方が使いやすい。仕切って使用できるのは良い。
- ・使用したことはない。

(12) ギャラリー（現状は小規模のギャラリーがあるが、モリシアホールが使用されることが多い。）

- ・ホールにギャラリーが必要という概念は無い。イベントホールなどの代替スペースがあればよい。
- ・現状は中途半端で使われている感じがほとんどない。イベントホールやロビー等で代替できればよい。
- ・専用のギャラリーは必要ない。イベントホール等の代替スペースがあればよい。
- ・ホワイエと兼用でよいのではないか。
- ・広さも半端なため、わざわざ無くて良い。
- ・当団体はPTAの会議や控室で利用している。
- ・モリシアホールがあればよい。
- ・ギャラリーは必ずしも必要ではなく、ホワイエとの兼用も可能である。ただし、ホワイエが狭くなるとは困る。
- ・使用していないので不要。
- ・団体として、ギャラリーとしての使用は無い。楽屋が不足したとき、楽屋として使用する。
- ・使用していないので必要ない。
- ・展示と重なり使用していないが、空いていれば楽屋として使う。
- ・ホワイエがギャラリーを兼ねても良い。
- ・ギャラリー機能はどこかに必要だが、文化ホール内に無くても良い。イベントホールと同じでよいのではないか。一方で現在は主催者控室として便利に使っているので、楽屋兼主催者控室、あるいは会議室兼主催者控室のような位置づけの多目的な部屋がどこかに欲しい。
- ・使ったことは無い。
- ・団体で使用したことは無い。
- ・何かを削減してまでではないが、芸術の拠点となるような美術的な部分ももう少し充実させたホールにしてはどうか。例) 府中、かつしかシンフォニーヒルズ
- ・必要ない。中途半端。楽屋が広ければギャラリーは不要である。
- ・もし展示を行うなら、モリシアホールを使用した方が良い。ホワイエはホールを借用した者が使うものである。
- ・使っていない。
- ・あることを知らなかった。使用していない。

(13) ホールの設置位置（現状は商業施設屋上）

- ・理想としては駅前の1階にホールがあった方が良いが、難しいのであれば現状の商用施設の上が良いと考える。ただし、バリアフリーのアプローチは必要である。
- ・現状のように商業施設の上でよいが、眺めをオープンに開放感を維持することは必要。条

件として付けるべき。

- ・駅から近い利便性が文化ホールの魅力である。駅から離れたら状況は異なってくる。
- ・都内などの土地のないところでは、商業施設の上部にホールがあることが多い。
- ・搬入を考慮すると、1階にあった方が良い。
- ・搬入出を考えると、搬入レベルとステージレベルが同じ方が良い。または、大きなエレベーターが必要。
- ・商業施設と合築しているところは、ホールが上階のケースが多いので、現状と変わらず商業施設の屋上でよいのではないかと。その方が、ホールの客が商業施設に流れることが考えられる。
- ・可能であれば1階に欲しい。
- ・理想は1階だが、駅前の立地では無理だと思う。演奏者からすると、2階より上であればエレベーターで上がるので、何回でも同じ。客は低中層階の方が良いと思うのではないかと。
- ・現状と同じ商業施設の屋上でよい。公演が終わった後、商業施設で憩える場所があるので、演者にとってもお客様にとっても良い。
- ・駅から連結してフラットな動線で来られるのが理想。低い階層にある方が良いが、フラットであれば、何階でもよい。
- ・アクセスしやすければ、現状通り商業施設の上でよい。高齢者は階段ではきつい。
- ・旧庁舎跡地も良いのではないかと。市役所とまとめて文化のコアを作ってはどうか。
- ・本当は単独の建物が良い。
- ・JR津田沼駅の駅近という立地が良い。これが大事である。
- ・商業施設の屋上であることは問題ない。
- ・立地は現在のところではなくては駄目である。JR津田沼駅からそのまま来られるという事が最大の魅力である。
- ・商業施設の屋上でよい。
- ・東京などから来る人が迷わなくて済むため、JR津田沼駅前が良い。
- ・JR津田沼駅前にあることは利用者と観客の両方にメリットがある。中々、そういうところはない。
- ・商業施設にとってもメリットがあると思う。
- ・1階か商業施設の屋上かについては、エレベーターを使うのでどちらでもよい。
- ・JR津田沼駅前であることが一番良い。
- ・エレベーターを使うので商業施設の屋上でも良い。
- ・商業施設の上であれば、避難場所にもなるし、良いと思う。
- ・バリアフリーができていれば、どの階にあっても問題ないのではないかと。現状は3階から4階へ行くアプローチが非常に悪く、分かりづらい。迷うような動線はダメである。使いやすい設計になっている必要がある。
- ・興行を行う立場から言えば、1階にあった方が良い。

(14) 希望する併設施設

- ・ホール内に飲食を提供するようなものは無くて良いと考える。
- ・カフェ的なもの。調理をするスペースは無くて良いので、軽食提供等簡単なものでよい。
- ・現在のホワイエにあるようなカウンターでワイン等のちょっとしたドリンクサービスがあれば、より秀

困気の良いホワイエにすることができると思う。

- ・外に出ずに商業施設に行けると良い。
- ・託児所は欲しい。防音の練習室等の他の部屋で兼ねることも可能と考える。
- ・カフェ等の飲食店については、商業施設内にあればよいため、ホールに併設する必要はない。
- ・集会できる部屋。モリシアホールは高い。
- ・車椅子の人も表からうまく上がってこられるエレベーターの設置を希望する。現状は、裏からの出入りとなっており不便で、誘導される人も申し訳なさそうにしている。
- ・母子室（モニター付き）の設置を検討してほしい。急に授乳が必要な場合などが有る。現状は母子室がないため、和室の楽屋を母子室として確保している。
- ・カフェの併設などは、運営上困難と思われるので不要。
- ・週替わりなどで、市民が自分の作品を販売するなどのチャレンジ物販店舗スペースの設置。
- ・特にありません。
- ・駐車場が絶対必要。出演者用の他に、スタッフ用や搬入トラック用が欲しい。
- ・壁に接していない広い花道が欲しい。道具をもって回るスペースが必要で、かつ、脇がすぐ壁だと影ができてしまう。（ドブの設置）※ドブ・花道と壁の間の客席
- ・色々な迫りがあると良い
- ・源氏幕を必ず設置してほしい。
- ・客用のエレベーターは必須。ホールについてから客席までのエレベーターも必ず付けてほしい。
- ・楽屋口の人用のエレベーターが小さい。
- ・トイレは洋式で、数を増やしてほしい。
- ・搬入は、今のままでよい。
- ・花道は、花道としては使用しないが、踊るスペースとして必要。現状では幅が狭く、長さも短い。独立した花道はいらない。
- ・新しいホールにも、映像を映せるスクリーンが欲しい（現文化ホールには有るが、プラッツ習志野にはない）
- ・最後部に密閉型の親子鑑賞室（ファミリールーム）があると良い。
- ・映像、写真撮影を行う専用場所が欲しい。現状は最後尾の席等をつぶして撮影している。最後尾に親子鑑賞室と並んで撮影専用室を設けてはどうか。
- ・300席～500席規模の小ホールが是非ともほしい。小ホールを備えていないことが文化ホール最大の欠点である。小ホールの設置希望は多い。プラッツ習志野のホールが音楽ホールとしては使い辛い。小ホールが、小さな公演やリハーサル、控室にも使えてよい。大きなりハーサル室を作るのであれば、小ホールが良い。
- ・珈琲や軽食を立ち飲み食いできる素敵なスペースがあると良い。
- ・駅前なので近くに何でもあるので、特に希望は無い。
- ・小ホール
- ・親子室や保育所などとの関係があると良い。
- ・カフェ等の飲食は、不要である。商業施設を利用すればよい。
- ・周りに店舗があるので、併設施設は不要である。
- ・託児所、親子室

(15) その他要望事項

- ・楽屋口のエレベーターが狭く、数名しか乗ることができないため、改善してほしい。
- ・バリアフリーの対応が必要。
- ・ホールの内装については、現在の木目とパイプオルガンが合っていることから、同様なものにしていただきたい。ホールイメージとして色彩感は大事である。
- ・楽器をもって階段を昇降することが大変なため、全ての楽屋は舞台と同じフロアに設置していただきたい。
- ・公演者等が利用する特別控室がステージの上手にあるが、通常、公演者等は下手から登場するため、新たなホールでは下手に設置すべき。
- ・文化ホールは近接商業施設の集客を助けている。飲食等各店舗に少額でもホールの運営費を助成してもらう仕組みがあっても良い。
- ・11tトラックが入る搬入口が必要である。商業施設の搬入口と兼用することも考えられる。それ以外に、11tトラック2台分の駐車スペースもあった方が良い。
- ・区分所有とするのであれば、ホール内の全てのメンテナンス（特に給排水等）を他の区分所有者と調整せずに行えるようにしてほしい。
- ・搬入口は、4tトラックが横付けできないと非常に不便。現状はトラックのお尻が入らない。トラックの荷台とエレベーターの高さが揃えられると非常に効率が良い。興行では11tトラックを使用する話もあったが、学校利用では4tトラックで十分。
- ・エレベーターの設置
- ・残響時間も大切だがそれだけではなく、現ホールは壁の仕上げが木でできており壁が鳴っているような印象を受け非常に良い。壁が石やコンクリートだと非常に硬い音になる。石と木は絶対に違う。反響板や椅子も木でできていて良い。床も木が良いが、安全性や歩行音を考えるとカーペットとなる。
- ・舞台と楽屋が同フロアにあった方が良いという意見については、学校利用では別のフロアで練習してから舞台に出るので、現状と同じ別フロアでもよい。高齢者で移動が大変であれば、スロープの設置などを検討してはどうか。
- ・音の良いホールは、床が木でできていることが多い。歩く音や高齢者が転んだ際の安全性を考慮しカーペットにすることが多いだろうが、音響と安全のどちらを取るかということ。壁のコンクリート剥き出しはやめてほしい。
- ・花道は必要である。
- ・トイレの数が少なすぎる。数を増やしてほしい。特に女性だが、男性も並ぶタイミングはある。また、ホールの扉を出てからトイレまでの動線も検討が必要で、有名ホールを参考としてほしい。
- ・宙づりワイヤーなど舞台装置を検討しても面白いのではないか。設置されれば当団体は利用を検討する。
- ・楽屋・リハーサル室と舞台が同階にあった方が良いという意見があるが、舞台へ音が漏れる事を考慮すると別階でよい。リハーサル室が地下などに分かれているホールもある。音出しの部屋は同じフロアに無い方がよい。同階には指揮者などの荷物を置いたり着替えたりする部屋が必要。
- ・2階席については、1フロアで納めて客と演者が近い方が良いが、客席確保の観点からすると、2階バルコニー席もありだと思う。その際、舞台の見やすさを考慮すること。

- ・搬入口については、車両を横付けできるようにし、エレベーターを一回り大きくしてほしい。また、入り口も狭い。当団体の搬入車両は4tトラック2台と2tトラック1台なのでスペースが必要。搬入口のサイズを検討してほしい。
- ・まずは音響である。木調は残してほしい。
- ・客席側（客専用）のエレベーターの設置は必須である。
- ・舞台機構を充実させてほしい。大迫りなどの機構が充実していると良い。現在はひな壇を造る際に人力で台を運んできているので非常に助かる。
- ・リハーサル室と舞台は離れない方が良い。大きなリハーサル室は地下などの別階にあっても良いが、楽屋や小さなリハーサル室は舞台と同階が良い。下手か上手に楽屋が偏る場合は、舞台裏の通路を確保してほしい。別階への上下移動は大変である。
- ・学校利用時に、子供たちの動きを掌握するためには、2階席がないワンスロープのホールの方が使いやすい。
- ・ホール仕上げの材質についても、現状維持で木質でお願いしたい。
- ・小さな団体であれば、全員舞台に出るので、動きやすさを考えると楽屋と舞台は同じフロアにあるべき。人数が多い団体や、複数団体が順番に舞台に上がる場合には、舞台使用中にリハーサル室を使用すると音漏れなど気を遣う。
- ・2階席（庇）の下は音が良くない。また、2階席を造ると1階の傾斜が緩くなり後ろの席から見えないことがある。ワンスロープだからこそ今の雰囲気であり、2階席があると客が分散してしまうことと、演奏者からの距離が遠くなる。バルコニー席は見えにくくなるので、あまり前の方まで席を設けない方が良い。正面でないと割り切れば多少見えにくくても音楽は聴くことができる。
- ・搬入口に2tトラック2台～3台同時につけられるようにしてほしい。1台では不便。また、ホームを設置してほしい。
- ・搬入用エレベーター及びバックヤードの演者用エレベーターが大きいと良い。大人数が一度にエレベーターで移動できると良い。現状は、演者用のエレベーターが小さく階段で移動していて、人数の多い団体は非常に大変そうである。
- ・反響板が降りているときの出入り口が狭い。出入りに支障があり、両脇の反響板を開けて演奏する場合もある。反響板の両脇奥にも出入り口があり、計4か所だと良い。出入り口の幅を確保するため、扉を2枚折れ戸などとする工夫が必要。
- ・（市からの投げかけに対し）舞台装置の大迫りはあれば助かる。足りない部分は、公演ごとにハコを置く。
- ・花道は合唱で利用しており、必要。
- ・空調の効き具合が席によって異なり、観客からのクレームになっている。
- ・楽屋と舞台は同フロアにある方が良い。ただし、同フロアにあると音漏れが課題となり調弦の時に気をつかう。別フロアだと階段の昇降が大変で一長一短。
- ・トイレの数を増やしてほしい。お客様は女性の比率が高く、休憩時間内に間に合わないことがあり、演奏が開始されてから入ってくるお客様もいる。他のホールではトイレはすごくたくさんある。もっと増やしてほしい。
- ・トイレが4階と6階にあり、5階に無いため階段を使わなければならない。
- ・搬入は特に困っていない。

- ・市民活動を主としたホールが良いが、色々なプロを呼べたら楽しくて良い。
- ・客用のエレベーターは必須。エスカレーターが欲しい。
- ・楽屋口のエレベーターが狭く、不便である上に、防災上人が殺到して危険である。
- ・トイレは改修されたことは良いが、客用のトイレが上下階で階段を使わなければならない、今の
ような造り立ては駄目である。また、数も少ない。
- ・前後の客席は、左右にずれたほうが良い。
- ・料金が安くなった方が良い。他に行くところがないので使用している。
- ・今のホールより客席の勾配が急になると危険。
- ・金屏風、鳥の子屏風などの備品を用意してほしい。(現ホールには有る)
- ・休館が長くなると、団体の存続にも関わる。プラッツ習志野を音楽以外の利用もしやすいよ
うに改修してほしい。(暗転が暗くならない、客席と舞台が近すぎる、舞台が低すぎる、階
段が急)
- ・ポトピア習志野の跡地にホールを建設したりできないのか。
- ・下手袖の部屋はもう少し広い方が良い。
- ・ワンスロープでなくても2階有りでもよい。
- ・全席の難聴者用磁気ループシステムは継続してほしい。整備されていることについて、もっと
アピールしてほしい。
- ・客席階へ直接行けるエレベーター、エスカレーターは必要。
- ・多目的トイレを含め、洗面所の充実をしてほしい。
- ・もし喫煙所を作るなら、出入り口の動線から離れた場所に設置してほしい。
- ・三遊亭圓生の碑は残してほしい。
- ・習志野の音楽、芸術、ギャラリー、歴史、観光などの施設を文化ホールに集め「習志野市ラ
ンドマーク」として常に人並が途絶えない文化ホールになると良い。総武線沿線で習志野文
化ホールほど評判の良いホールは無い。安っぽいものに生まれ変わらないでほしい。
- ・まだホールとして使えるにもかかわらず商業施設と合築しているため建て替えを検討しなくて
はならない。計画当初なのであれば、独立したホールを旧庁舎跡地に建てることはできない
のか。長期的に見たら、土地をもって単独のホールを建てたほうが良い。
- ・JRの駅に近いことは、来場者のことも考えると非常に有益である。
- ・きちっとした監修や設計者を選定してほしい。デザインビルドにはしてほしくない。
- ・搬入はワゴン車や2tトラックを使用するため問題なし。トラックを止め置けるようにできると良
い。
- ・興行であれば、もっと大きなトラックを使うだろうから、広くした方が使ってもらえるのではな
いか。
- ・搬入用エレベーターは特に問題なし。
- ・トイレが遠い。
- ・壁の仕上げは、木にこだわるという事もないが、木の方が良い。
- ・市外の〇〇会館や、△△ホールは音楽で使用するホールではなく市民会館である。比較に
ならない。文化ホールは近隣でもすごく評判の良いホールである。
- ・プロが好んで使いたいと思ってもらえるようなホールを造ってほしい。プロがあまり来ない理由の
一つは、駐車場の問題があると思う。

- ・バリアフリーは絶対に必要。車椅子の方が、正面玄関から一人で普通に來られるホールにするべき。
- ・トイレは狭く、数も少ない。全フロアに設置した方が良い。
- ・搬入はワゴン車で行うので困っていないが、楽屋口(人用)エレベーターが狭いことと、関係者用駐車場がもう少し止められると助かる。
- ・エアコンの温度調節がエリアごとにできると良い。舞台と客席では温度が違ふ。照明のLED化で舞台が暑くなくなればそれでも良い。
- ・バリアフリーは必要。足の悪い観客も多く、今は裏手の演者用のエレベーターを使うしかないが、裏手へ案内すると混雑してしまう。客席側にエレベーターを設けてほしい。
- ・トイレは全て洋式化してほしい。女子トイレに化粧スペースがあると良い。
- ・搬入は2t ロングのトラックを使用するので、現状の搬入口で問題ない。貨物用エレベーターのサイズも良い。
- ・新しいホールでも、楽屋側にエレベーターが欲しい。
- ・小中学校音楽コンクール等で使用する際は、リハーサル室は複数あった方が良いのではないかと思う。
- ・外壁を利用し、広告やプロジェクションマッピング、モニターなどで収益を得てはどうか。
- ・搬入は個々にワゴン車などで行うので問題ない。
- ・花道はまれに使う。大きさなどは、できるものをやるので良い。できているものに合わせてやっている。
- ・駐車スペースがギリギリである。台数を増やしてほしい。5～6台は必要である。
- ・搬入用エレベーターはグランドピアノが入る大きさを確保してほしい。(現状は入る)
- ・ホールへの動線が分かりづらい。どこから入ってよいかわからない。入口が明確にわかることが大事。
- ・反響板を降ろしても使用できる大スクリーンを設置してほしい。指揮者やソリストを映し出す演出をしてはどうか。
- ・ウィーンフィルの椅子は木でできていた。長時間座っていると痛くなるが、音は非常に良い。
- ・ホールの床は、木が理想である。
- ・多目的ホールならではだが、花道は無くても良い。
- ・不特定多数の人が使うホールなのに、近くて遠いホールと呼ばれるように、バリアフリーでなく、席に着くころには疲れてしまっている。不特定多数が使う施設としては全くダメである。なぜ、あのような造りにしたのか疑問である。エレベーターもあると聞いているが、分かりやすいところに設置し、日常的に使用できるようにするべきである。
- ・JR 総武線駅近の現在の立地が良い。
- ・駅前にホールがあることは魅力的で、高齢者がターゲットの演目では、駅近でないと集客できない。徒歩5分程度であれば許容できるが、徒歩10分となると許容できない。バスの利用も駄目である。また、駅から離れると駐車場の確保が必要となる。
- ・JR 沿線と京成沿線では、JR 沿線が良い。
- ・搬入用エレベーターが小さく、何回も上げ下げする必要がある。もう少し大きくしてほしい。
- ・搬入用の11tトラックが止められない。11tトラック+aのスペースがあると良い。現状、海浜部の市有施設の駐車場へ停めるよう案内されている。

- ・搬入車両と歩行者の動線の交錯がある。
- ・花道はあまり必要ないが、歌舞伎などの公演では使うことも考えられる。
- ・キャパに対してトイレが少ない。特に女性用が混雑してしまい気になる。
- ・車椅子の方の動線がない。客席側にエレベーターが必要。
- ・高齢化がますます進む中で、車椅子席は多めに設置する方が良い。席種毎、各フロアにあった方が良い。1か所に限定すると、車椅子の方は1番高いチケットを取らなければならなくなる。
- ・ホールの視認性は、良いに越したことはない。
- ・ロビー、ホワイエにエスカレーターを設置すると、興行事業者に対し警備を付けてくださいという話になり、警備員のコストがかかる。
- ・現ホールが一番の問題は搬入口である。11tトラックが横付けできず時間がかかり、雨天時には機材が濡れることもある。トラックで搬入しやすい方が良い。現状は坂になっていて使いづらい。もう少し天井に高さがあると良い。
- ・搬入用エレベーターはもう少し広いと良い。
- ・八王子のオリンパスホールは搬入口が広く11tトラックをエレベーターにつけられる。エレベーターが広くて速い。すぐ脇に人用のエレベーターもあり、状況によっては搬入にも利用できる。
- ・今の搬入口では搬入に時間がかかり、他のホールなら当日搬入で良いところを前日に搬入し、仕込みをしている。なお、某コンサートの場合、11tトラック1台と4tトラック1台で搬入している。
- ・JRと京成を比べるとJRの方が客に分かりやすく良い。今の立地だと東京から来やすく、商業施設内にあるため、公演の前後で買い物や食事もできる。
- ・興行としてはタクシーやバスに乗る必要が無い、駅近のホールが良い。
- ・シルバー層の足まわりを考えると、夜の公演がある場合は、駅からのアクセスが良い方が良い。
- ・駅近のホールであることがポイントで、習志野文化ホールが空いていなければ、千葉県文化会館を選んでいる。
- ・客席側にエレベーターやエスカレーターが必要である。
- ・トイレの数が多い方が良い。比較的に女性のお客様が多い。女子トイレを増やした方が良い。男性用トイレを女性用トイレへ変えて使用できるホールもある。
- ・使用料の問題も大きい。ゲネプロを兼ねて行う場合や、ホールが共催してくれる場合には使用することがある。〇〇のホールは駅からのアクセスが悪く、ステージも良くないが、使用している。
- ・花道は使っていない。演目によるが、無ければ無いなりに行うので問題ない。花道としての使用はしていない。
- ・映像を使う演出を行う設備が欲しい。プロジェクターで舞台後方から映し出せると良い(そのためには舞台裏に大きなスペースが必要とのこと)。現在はそうした映像演出が進んでいる。
「新しい文化ホールでは、〇〇の演出ができる」ということが、関係者の中で広がり、借りる人が増えるのではないか。
- ・楽屋用のトイレが少ない。
- ・グランドバレエを行う際、大型トラックでの搬入出ができない。停め置く場所もない。大掛かり

な装置が入れない。また、舞台の奥行きや袖が狭く演出面が無理がある。市内音楽団体をバックアップするなら、そこまで必要ないかもしれない。しかし、収入を考えれば必要ではないか。

- ・JR 津田沼駅前の立地は良好である。
- ・仮に市内の他の場所に移転した場合、舞台の広さや搬入出の問題が解決していれば使うのではないかと。条件が良ければ使う。
- ・芸術は見なければ進まない。子どもたちが見て、その中で感じる子が進むもの。見る聴く機会がなければ、そこで終わってしまう。

(16) 新たなホールに対して、どのような特徴・コンセプトを希望するか。

- ・市民による文化活動の発表の場であることを主とする。市民団体は平日に公演を行うことはできないため、収支の改善を目的として興行を増やすことは絶対に行ってはならない。興行を主とすることは、本来持つ意味からかけ離れており、絶対にダメである。文化芸術とはそのようなものではない。費用のことばかり考えることはナンセンスである。
- ・市としてホールの位置づけが重要である。建設当時もプロを主とするのか、市民の利用を優先してたまにプロを呼ぶのか、といった検討はあった。当時の吉野市長が市民利用を軸に決定したものの。
- ・建替え期間で休館している間、利用者が離れてしまう可能性が有る事、建替え前より質が落ちる施設になってしまう可能性が有る事の2点が心配である。
- ・建設当初の質は維持した方が良い。再建設し、いざ開演してみても「ちょっと・・・」となるなど、建替え前より悪くなったと思われるようでは困る。
- ・文化ホール(財団)は自分でもっと稼げるように頑張らなくてはいけない。それだけ値打ちのあるハコを持っている。地の利は最高であり、遊ばせておく必要はない。
- ・子供たちから大人まで、文化活動に大きく寄与してきた。市民が利用しやすい環境は大事である。大人は利用料を払えるが、子供は経費負担に限界がある。コンパクトな市であるにもかかわらず、今年も多くの学校が全国コンクールに出場しているが、利用料が高いために他市のホールで練習を行う等の工夫をしている。文化ホール一回分の利用料で、他市のホールなら3回利用できる。市川のホールで習志野高校の定期演奏会をやるといった話も合った。使いやすい利用体系の見直しは必要と考える。
- ・建設当時吉野市長は、「政治家にとって、金を工面し、建物を建てることは難しいことではない。しかし、人づくりは難しい。それは、政治家ではできない。」と言っていた。なぜパイプオルガンを造ったのかというと、普通のホールではダメだと考えられたからである。文化ホールは本当に音の響きが良く、当時はNHKの音響技術者を入れて作られたものである。ヨーロッパで音の響きが良い教会では必ずパイプオルガンがある。そうした環境を子供たちの教育に活かすという吉野市長の想いを知っている。どういったホールにしたいのか、ビジョンが大切である。
- ・習志野市には文教住宅都市憲章がある。近年、奏の杜という新しいまちができた中、市民も相当変わってきている。住むことのブランド・価値に文化ホールは寄与している。
- ・現在の文化ホールは音の響きにこだわっており、そこが良いところである。他市のホールのような箱だけの響きの悪いホールにしてしまえば、魅力のなくつまらないホールになってしまう。そのようなホールにはせず、客席規模と音の響きは現状を維持してほしい。

- ・学校利用や団体利用がメインであるが、現在の立地だから興行が入っていると考えている。そもそも、収益を上げられるという感覚は無い。赤字を多少補填できる程度である。
- ・学校利用や団体利用を主としてグレードを下げるのであれば、興行を行うことが難しい事から、駅前に設置する必要がないと思われる。現在の立地を考えた場合、多目的ホールとして現在の利用方法を継続するのが良いと考える。
- ・どれだけ現状のイメージを維持できるかが大切。特に響き、音が変わってしまわないでほしい。
- ・40年以上経過したホールが今でも見劣りしない。建設当時の先見の明と、平成13年度の大規模改修が良かったと思う。愛着があるので現状の感じを受け継ぎ、長く使えるホールを希望する。
- ・コストパフォーマンスが大切となる。金をかけても稼働率が低いホールはいくつもある。駅前のホールでもあり、稼働率は重要である。使われることが大切である。
- ・現文化ホールは非常に音が良い。観客だけでなくステージ上でも演奏者にも非常によく聞こえる。音の響きは県内随一である。
- ・現ホール建設時の人口に対しての規模の大きさからも、造った人(吉野市長)の思いをくんでほしい。吉野市長の想いが今の習志野の音楽につながっている。やりたい気持ちだけでは芸術は育たない。環境、ハコも必要。音楽的感性をくすぐるものが無くてはいけない。音楽のまち習志野の原点である。コスト以上の功績がある。コストだけで論じるのは危険であり、トータルで考えるべき。
- ・現在のホールが、癖のない素直なホールでよい。
- ・まるっきり新しいものを造ろうという発想が必要。
- ・音楽筋に評判の悪い近隣市のホールは、演劇や落語に最適な残響時間であり、“悪いホール”ではなくコンセプトが違うだけ。習志野文化ホールは、コンセプトを明確に計画を進める事。
- ・ホワイエをギャラリー代わりに使用するときには、ホール利用者との動線の区別や、お互いの音の影響などを考慮した設計とすること。例えば有料でホールに来た観客と、無料でギャラリーに来た客の動線の交錯があるとトラブルになる事が考えられる。
- ・演奏会は単独では成り立たない。友達と会えておしゃべりし、終演後に周辺でご飯を食べたり時間消費できるホールである必要がある。例えば、ロビーやホワイエでお酒や軽食をとれる「井戸端会議ができる溜り場のようなホール」のようなコンセプトで、そこへ行く楽しみを作っていくホールが良い。演奏会へ行っただけに何かできる、という事も大事。市民の行動パターンを作っていく。
- ・計画に音楽家に携わってもらいたい。舞台に立つ人間を無視してハコだけ作ってしまうのはダメである。日本は、建物のハコが先行しがちである。
- ・市民ホールだから市民が皆使えるホールというが、誰でも舞台に上がれるホールという事ではない。市民の意見は大切だが、線を引くことは必要であり、舞台に立つということは特別なことである。一般の方は観客として参加できる。より水準の高いものを見せる事。
- ・ホールは何のためにあるのか。多目的、市民皆が使えるという事は大事だが、それぞれの立場のみ要望していくと、そのためだけに本当に必要か？というものもある。
- ・クラシックコンサートがきちんとできる場所が必要。
- ・良いホールは、可変式の反響板などの調整を、何もしなくても良いホールである。
- ・ホールそのものが名物になり、古くなってなお良くなっていくホールとなる事が夢である。「ホール

を見に行く」「わくわく感がある」「スタッフがやり易い」ホールが良いホールである。

- ・習志野文化ホールの長所としては、ステージと客席に音響の差がない。どちらかだけでも駄目である。
- ・習志野文化ホールは、ホールが大きいので音が散っている。
- ・オーケストラピットとパイプオルガンが、文化ホールの売りである。
- ・日本はバックステージと楽屋が良くない。
- ・良いホールには良いピアノがある。楽屋にもピアノが必要である。ホールがきちんとしているかの目安である。
- ・ホールも楽器の一部である。日々音響はコンディションが変わる。
- ・良いホールには良いスタッフがいる。
- ・コンクリートの乾き具合や、椅子のカバーの材質でも音が変わってしまう。サントリーホールは使用開始後3年程度は調整を繰り返した。
- ・ヨーロッパの伝統あるホールは、脈々と受け継がれてきたものがあるが、結構ボロい。大切なのは建物ではなく人（音楽家、スタッフ）である。
- ・世界的なホールを目指したい、それを作っていくために、ステータスを上げていく必要がある。ウィーンなどのホールは、伝統や歴史が売りになっている。大切なのは音楽家である。子どもの頃、良いホールで演奏した記憶が未来の音楽家を育て、習志野文化ホールで演奏した人たちが習志野シンフォニエッタ千葉へ集まってきてくれた。この環境こそが大切。“習志野むら”の住人が作ったオーケストラとホール自体が名物になるようにしたい。
- ・サントリーホールは音響だけでなく、ホールそのものも良い。その、良いところを取った軽井沢大賀ホールも良い。
- ・九州大学（椎木講堂）の可動壁は参考になるのではないか。
- ・○○ホールは響きすぎる。
- ・△△ホールは、設計時点で消防法の関係で、舞台と客席を入れ替えたいで失敗である。
- ・川崎ミュージアのように、駅からホールまでにバナーフラッグを設置するなど、町全体で盛り上げてはどうか。
- ・◇◇ホールは客席が遠く、臨場感がない。
- ・人口の約3%弱がクラシック人口と言われている。そうした人々が年内に使うクラシック予算は決まっている。
- ・チケットは4千円を超えると入らないと言われている。
- ・ホールの在り方として、都市間競争で“あっちの市にもあるから習志野にも造る”という事では自治体間でお互いに負担が大きくなる。理想は理想、現実には現実で、お互いに使用しあうという考え方が必要と考える。音響の良さは絶対である。かつて越路吹雪が音響に惚れたホールである。今よりも質を落とさないでほしい。市民利用・教育を中心というのは理想であるが、事業者からすると経済波及効果を考え、無責任に希望を言えば、席数は多い方が良く、興行も大いにやってもらいたい。
- ・現ホールの、ホールに入った瞬間の雰囲気は千葉県内随一である。このような質感を持った、素晴らしい内装のホールを維持してほしい。
- ・自治体が文化ホールを所有する意義を明確化し、どのような利用形態とするのかを絞り込む必要がある。

- ・ホールの位置づけを検討し、自治体としての文化ホールの価値、利用のイメージ等を固める必要がある。
- ・多目的ホールなのか、クラシックホールなのか。
- ・どのような興行を打っていくのか。市民の文化活動としてどの程度必要なのか。
- ・市の文化活動の質の高さを考えると、学校音楽活動を核としていくのが良いのではないか。
- ・公的利用の場合でも、興行利用と同等の利用料を取り、市から文化振興費用又は学校教育費用として補助することで、ホールを維持管理していくために費用がかかることを認識してもらうことができる。
- ・稼働率等を考慮した上で、建築費、維持管理費及び運営費を賄えるような利用料を設定する必要がある。
- ・大学生や専門学校生が使用できるようにすることや、ゴールデンタイムとそれ以外に分けることも必要かもしれない。
- ・楽団や習志野高校吹奏楽部の練習を公開練習として、料金をとることもできるのではないか。
- ・集客できるイベントの場合、ホワイエに物販業者を入れることもできる。収益の3割を支払ってもらおう等が考えられ、ホワイエの使い方次第で稼ぐことも可能である。(流山の再開発では、結婚式ができるホテルを併設し、ホールでも式が挙げられるような要項になっていた。実際にそのようになっているかは不明。)
- ・様々なイベントを行い、毎日稼働している状況を目指すべき。
- ・アマチュアを中心にした興行も考えられる。大阪ではダンス部の活動による集客を行い、学校の活動資金集めも兼ねている。学生であれば、出演料を支払わなくていいことから、利益率が高い。
- ・アマチュアによる興行をメインとし、アマチュアの活動を支援するのであれば、ある程度スペックを下げることで建設費を抑えることができるのではないか。
- ・運営でしっかりマーケティングを行って価格設定をすれば、想定している以上に利用料金を取ることができると考えられる。
- ・民間とマーケティングをしながら、お金を出したくなる質の公演を行っていく必要がある。民間事業者による運営を考える必要がある。
- ・市が建物を所有するのであれば、いずれは建設費を支払わなければならない。民間に資金調達してもらい、市が利用料として割賦払いをするケース等が考えられる。
- ・学校利用や団体利用の利用率の上限を市が決め、それ以外の興行割合分の建設費を運営する民間に負担させることも考えられる。
- ・習志野高校吹奏楽部とタイアップしたクラウドファンディングも考えられる。

(17) その他

- ・現状はAホールと習志野文化ホールを中心に興行を行っているが、Aホールはアクセスが悪く、文化ホールの使用頻度の方が高い。
- ・千葉市民会館が計画通り移転した場合、客の利便性を考慮し、利用する可能性はある。
- ・習志野(津田沼)エリアは商圈として得意である。千葉のホールが出てきた際には、同じ商圈であり、やってみようかということになる。

- ・料金設定が重要である。
- ・習志野文化ホールが使い慣れていて、使いやすい。
- ・客席がワンスロープなのは区画上、チケットを売りやすい。
- ・他のホールでは有料でゴミ処理をしてくれるところもある。新ホールがそうなるとなお良い（現ホールは、ゴミは持ち帰り）。
- ・津田沼へ東京から客を呼ぶことは想定しておらず、広告は千葉や船橋へうっている。
- ・座席数については、2,000席あればなおよい。3,000席では使いづらい。1,500席では少し小さいが、1,000席や1,200席にすると使わないわけではない。チケットが売れるかどうかが大切。
- ・旧庁舎跡地を建設用地として比較していることについて地方へ行けば駅から遠いホールは多い。その場合、車で来場することが前提となるが、駐車場の規模が中途半端であれば、無い方がよい。車で来場したが、入れないトラブルとなりかねないことから、公共交通機関の利用を呼び掛ける。駐車場の整理を興行事業者側が行うこととなるケースが多く負担になる。
- ・都内の2,000席規模のAホールは、客の溜まりがなく使いづらい。
- ・関東他県に新設されたBホールは駅から徒歩10分だが、直通のデッキでつながれており、あまり不便に感じない。